



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



📌 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題 ～手足口病の流行再燃？～ **NEW**
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（8月月報） **NEW**
- 病原体（ウイルス）検出情報（8月） **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 36 週 9月5日（月）～ 9月11日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	手足口病	2.20	→～↓	→	↓	↓
2	感染性胃腸炎	1.46	→	→	→	↓
3	咽頭結膜熱	0.57	→	↓	→	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.49	↑	↑↑	→～↑	↑
4	水痘	0.49	→	→	→～↓	→～↓
4	ヘルパンギーナ	0.49	→	→～↑	→～↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

奈良市保健所管内で手足口病が警報レベル（定点当たり5.29）です。

県北部地区概況 報告数は 136 例で、前週報告の 123 例からやや増加。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③水痘、④突発性発疹＝ヘルパンギーナの順。手足口病の報告数（58 例）は、やや増加。水痘の報告数（11 例）も、やや増加。ヘルパンギーナの報告数（10 例）も、やや増加。突発性発疹の報告数（10 例）も、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（21 例）は、ほぼ横ばい。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。奈良市 HC 管内眼科定点から流行性角結膜炎が 1 例、また、郡山 HC 管内眼科定点からは、急性出血性結膜炎が 1 例と流行性角結膜炎が 2 例それぞれ報告された。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数は、予防接種希望者を除けば少なくなっている。相変わらず手足口病が保育園児で流行しているがやや減少気味で、今季 2 回目の感染が目立っています。それ以外では、時に RS ウイルス感染やアデノウイルス感染がみられる程度です。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は35週の90例から、36週は94例とやや増加した。上位の5疾患（35週→36週）は、①感染性胃腸炎（21例→29例）、②咽頭結膜熱（23例→19例）、③手足口病（14例→16例）、④A群溶連菌咽頭炎（6例→8例）、⑤水痘（4例→5例）の順であった。感染性胃腸炎が1位となり、手足口病は3位のままであった。インフルエンザの報告はなかった。基幹定点からは葛城HCよりマイコプラズマ肺炎1例（5～9歳）の報告があった。眼科定点からは葛城HCより流行性角結膜炎2例の報告があった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数は普通、各種予防接種が多い状況。手足口病がまだあり、幼児で口内炎・発疹ともに多い例があった。水痘、伝染性紅斑が少し。感染性胃腸炎が見られ、発熱、嘔吐なく水様便を呈する例が乳児から幼児でやや増加。RSウイルス気管支炎がまだあり1歳児で紹介入院した。感冒症状が持続した2歳児で急に浮腫を認め、紹介先でネフローゼと診断された例があった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第35週→第36週）は25例→16例と減少。報告のあった疾患は、①A群溶連菌咽頭炎（3例→4例）、②手足口病（11例→3例）、③ヘルパンギーナ（2例→3例）、④伝染性紅斑（1例→2例）、⑤RSウイルス感染症（0例→1例）、⑥感染性胃腸炎（3例→1例）、⑦水痘（1例→1例）、⑧流行性角結膜炎【眼科定点】（0例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は少ない。手足口病がまだやや見られたが、軽症。ヘルパンギーナ僅か。伝染性紅斑1例あり。感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、水痘も僅か。流行初期の手足口病、四肢発疹症（手足口病疑い）数例で当初ウイルス検査陰性との報告であったが、後日PCR法で再検の結果、やはりCoxsackievirus A6が同定されたとの連絡を頂いた。その他EBウイルス感染症1例があった。（山本 記）

【気になる話題 ～手足口病の流行再燃？～】

奈良市保健所管内で手足口病の定点あたり報告数が再び警報レベルとなりました。一部の医療機関からは再感染例が見られるとの報告（第34、36週の外来状況参照）があり、増加の一因となった可能性があります。

表. 第36週の定点あたり報告数(保健所・奈良県・全国):単位(人)

保健所	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	奈良県	全国
第36週 (前週)	5.29 ↑ (4.71) ↑	2.10 (2.00)	1.00 (1.00)	1.29 (1.00)	1.50 (3.50)	0.00 (2.00)	2.20 (2.23)	4.14 (4.41)

赤字は警報レベル（手足口病の警報開始基準値は5.00、終息基準値は2.00）

（感染症情報センター 記）

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（8月月報）】

平成23年8月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数（人）

疾患名/報告月	8月		前月（7月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	10	1.11	10	1.11
性器ヘルペスウイルス感染症	3	0.33	3	0.33
尖圭コンジローマ	2	0.22	2	0.22
淋菌感染症	1	0.11	6	0.67

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	8月		前月（7月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	40	6.67	34	5.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	1.00	11	1.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	1	0.17
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成23年8月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、8月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成23年8月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	その他	臨床診断名
アデノ	1		1			咽頭結膜熱(1)
アデノ	40/41				1	感染性胃腸炎(1)
エンテロ	NT		1			扁桃炎(1)
コクサッキー	A6	4	6	3	1	手足口病(7),ヘルパンギーナ(1),カポジ水痘様発疹(1),滲出性扁桃炎(1),発疹症(3),口内炎(1)
コクサッキー	B5		1			無菌性髄膜炎(1)

NT: Not Typed

（保健環境研究センター 記）